

(様式1)

令和3年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

		学校番号	17
(1) 学校教育目標		学 校 名	青森県立鰺ヶ沢高等学校
		全日制の課程	校舎・分校
(2) 現状と課題		自己評価実施日	令和3年12月17日(金)
		学校関係者評価実施日	令和4年2月25日(金)
(3) 重点目標		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
		学校評議員3名、保護者3名 計6名	
(4) 結果の公表		学校Webページ上にて公表する。	

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲を高める授業の工夫をする。	①義務教育段階でのつまずきの把握 ②習熟度別少人数授業による細かな学習指導 ③学ぶ意欲を高める授業の工夫と家庭学習の習慣化 ④新学習指導要領に向けた研鑽 ⑤朝学習や新聞を活用した一般常識の定着	①朝学習でのドリルや進路マップの診断テスト結果を活用し、生徒の学力を把握している。朝学習や考査前の個別の特別指導を継続して行うことで、基礎学力や学習習慣の定着を図っている。 ②1・2年生の数学・英語を習熟度別の少人数指導とし、能力に応じた指導を行っている。また、進路希望に応じた教育課程を編成している。 ③生徒の学習意欲を高めるため、ICTを活用した授業に取り組んでいる。互見授業週間、中堅教諭等資質向上研修における研究授業の実施と参観を通して授業改善を図ることができた。家庭学習時間調査結果の形式を変更したことでホームルーム担任が家庭学習の定着に向けた指導に役立てることができるようにした。 ④次年度から年次進行で実施となる新学習指導要領に基づく各教科の指導と評価について研修を行い、新たな評価基準の作成等の準備を進めている。 ⑤朝学習において小テストを実施し、基礎学力の定着を図っている。各クラスに毎日新聞を置くことで、新聞の有効活用と一般常識を身に付けさせることができた。	B	・保護者による学校評価アンケートから、「基礎学力、学力の向上に対する指導が行われていた」、「資格取得に積極的に参加させる指導が行われていた」については、昨年度より高い評価である。 ・多様な生徒の希望を尊重し、個に応じた授業、わかる授業など新学習指導要領を踏まえた授業改善に努めるとともに、効果的な教育課程の編成と校内研修の充実を図る。 ・朝学習や放課後の進学講習を通して、生徒の学習意欲を育て、基礎学力の定着や学力の向上を図る。	

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) 学校関係者からの意見・要望・評価等	
2	基本的生活習慣の確立を図り、健全な心身を育成する。	①端正な服装・容儀、元気な挨拶、落ち着いた教室環境の整備 ②集会や儀式的行事を活用した所作・礼儀作法の会得 ③ネット、スマホ等の情報モラルの徹底 ④「豊かな心」の育成といじめの無い人間関係作り ⑤健康教育の推進による健全な心と体の育成	①全教職員による授業中の指導、登校指導、場面指導等において効果が認められる。少人数ということもあり、教室内在整然としていて清掃も行き届いている。また、ICT機器がほとんどの教室に整備されている。新型コロナウイルス感染症防止対策として、手指消毒用アルコールの設置、空気清浄機の設置ができた。冷房用エアコンは現在工事中である。 ②集会や行事等における所作や礼儀作法については、日常の指導と合わせその都度指導して生徒の態度は良好である。また、日常の挨拶もしっかりしている。 ③4月にスマホケータイ安全教室を開催した。情報モラル教育については、各ホームルームや教科・情報においても指導していて、大きなトラブルはない。 ④いじめの早期発見・早期対応のため、生徒・職員には毎月、保護者には学期毎にいじめアンケートを実施している。今年度はいじめ認知は0件である。アンケートや口頭による相談や申告に対し、すぐに対応して生徒に寄り添う指導ができていた。また、支援が必要な生徒の校内での共通理解と手立てについて情報交換会を実施している。1年生1名は6月から不登校となったが、毎週家庭訪問を実施、保護者に対してはスクールカウンセラーによる面談を行った。全体の2月までの出席率は、98.0%である。 ⑤保健だよりを発行し健康増進への啓蒙を図っている。学校歯科医の支援のもと、隔週1回のフッ化物洗口(1・2学年)を実施した。虫歯の罹患率は減少傾向である。校内外の安全点検を毎月実施し、危険箇所の修繕に努めている。避難訓練は3回実施した。	B	・同窓会長からは、「町内で饅ヶ沢高校の生徒が挨拶をしてくれてとても気持ちが良いという話を聞いている」というお褒めの言葉があった。 ・学校評議員及び学校関係者評価委員による学校評価アンケートから、「普段の学校生活における生徒の挨拶や服装・態度の印象はいかがですか」、「校外における本校生徒の挨拶や服装・容儀、交通ルール遵守等の状況はいかがですか」については、高い評価である。 ・保護者による学校評価アンケートから、「非行やいじめ等の未然防止・早期発見に取り組んでいた」、「いじめ問題に対する基本方針が学校と保護者と共有されていた」については過年度より低い評価である。	・玄関前の登校指導の取組を継続し、生徒の状況把握とコミュニケーションの場として活用していきたい。 ・いじめに関する取組や学校いじめ防止基本方針に関する事項について、家庭との連携や共有という点で課題があるという指摘を受け、保護者への説明を徹底するため、入学予定者説明会の時点から入学予定者とその保護者に対する説明機会を設け、さらにPTA総会においても説明をする。 ・情報モラルに関する指導では、生徒の細かな情報を全教員で共有し、ホームルームや各教科での指導に役立てよう意識付けをしていく。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策をしっかり行い、生徒・教職員の健康の保持増進を図る。
3	学校行事や生徒会行事、課外活動を通して、自己有用感・自己肯定感を醸成する。	①生徒会行事や部活動における自主・自立の養成 ②課外活動・ボランティア活動を通じたコミュニケーション能力の育成 ③地域貢献活動を通じた郷土愛の醸成 ④総合的な探究の時間を活用した「生きる力」の育成 ⑤資格取得挑戦の励行と合格率上昇	①饅ヶ沢中学校との合同体育祭においては、両校の生徒会役員が話し合いをもちながら計画を進め、盛大に開催することができた。学校祭やスポーツ競技大会においても役員中心に準備を進め開催することができた。生徒会行事は生徒会役員中心に生徒主体で計画・運営された。部活動においては、生徒数減少に伴い、運動部は他校との連合チームで高校総体に出場した。3年生が引退し、部員が0人の部があり、集団競技の部活動は次年度以降活動がむずかしい状況である。 ②③町内の清掃活動、白神ブナ植樹ボランティア体験、インターンシップ、SBP研究会などの活動をとおして、達成感や自己肯定感が醸成できた。また、それらの活動や饅ヶ沢甚句「流し踊り」を通して郷土愛が醸成できた。 ④3年間を通して、地域探究、IT教育、キャリア教育、進路研究、生と性を考える教室といったテーマを設定して、町の協力や連携のもとに計画的に実施し、生徒の生きる力の育成につながっている。 ⑤各種の検定や模擬試験等の受検費用の一部を学校後援から補助していただき、生徒が受検しやすい環境を町の協力で実現できた。生徒にとっては大変有難く、意欲向上につながるものである。しかし、今年度は受検者の著しい増加には至らず、全体の学力の低下がひとつの原因ではないかと分析している。	B	・学校評議員及び学校関係者評価委員による学校評価アンケートから、「中学校との合同体育祭は生徒のためになったか」については、不十分という評価が2名の委員からあった。 ・学校評議員及び学校関係者評価委員、保護者による学校評価アンケートから、生徒会行事・ボランティア活動・インターンシップ・町との連携事業に関する評価では、高い評価である。	・生徒数の減少に伴い、行事の計画や運営方法に工夫が必要であり、生徒・教職員が協力する中で、生徒の主体性を発揮させるようにする。部活動においては、集団競技の部は存続が厳しいと判断する。個人競技の部は継続したい。 ・総合的な探究の時間を含め、さまざまな活動を通して、生きる力の育成を継続していく。引き続き、町との連携・協力も継続していく。 ・学校後援会からの受検料の補助制度を活用し、生徒の資格取得へのチャレンジを推奨していく。放課後講習を個別に実施し、資格取得に向けた意欲と能力を育成する。

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) 学校関係者からの意見・要望・評価等	
4	保護者・地域への情報発信を図り、開かれた学校づくりに努める。	①学校Webページ・広報誌の充実 ②地元住民・中学生への積極的な広報活動 ③保護者の積極的な行事参加 ④新聞社への記事掲載依頼 ⑤学校公開の実施 ⑥町・地域団体との連携事業の継続	①②学校Webページは行事のたびに更新し、迅速な情報発信に努めた。また、緊急時においては緊急配信メールで緊急連絡等の発信を行った。例年通りPTA新聞「舵」を発行できた。「鯨高通信」を町広報誌に毎月掲載し、本校の活動を町民に紹介することができた。体験入学や中学校での学校説明会では、SBP研究会の取組成果を発表することができた。特に12月には、鯨ヶ沢中学校のふるさと学習の一環として、SBPの活動発表を鯨ヶ沢中学生に対して、生徒・OBが出向いて行った。 ③コロナ禍にありながらも実施できた学校行事等には保護者の協力を得ることができたが、一声運動への参加や豚汁支援への協力者は少ない状況であった。 ④「流し踊り」、「合同体育祭」、「INFLUX・ミネラルウォーターの贈呈式」、「SBP町長表敬訪問・県教育長表敬訪問」、「けんしんよう絵画コンクール理事長小受賞表彰式」の取材・記事掲載を依頼をした。 ⑤授業公開週間を6月に設けた。コロナ禍のため、今年度は保護者と鯨ヶ沢中学校教員のみを対象としたが、数名の参観者に留まった。また、中高連携協議会を実施し、有意義な情報交換ができた。 ⑥町の支援によりSBP研究会活動をより発展させることができた。また、体育祭や流し踊り等の行事においても、町や地域保存会との連携を大切にしながら実施できた。	B	・保護者による学校評価アンケートから、「学校Webページやメール、広報、公開授業などを通して、保護者・地域へ学校情報の発信が行われていた」、「PTA活動（PTA新聞「舵」の配布、）の参加率を高めるための活動が行われていた」は、過年度同様の比較的高い評価である。 ・学校評議員及び学校関係者評価委員による学校評価アンケートから、「広報あじがさわの本校のページ「鯨高通信」は学校を紹介するに十分だと思いますか」は、高い評価である。「学校Webページ」「公開授業週間」に関する評価では、低い評価または、わからないという評価である。	・コロナ禍における保護者の協力に関しては、感染状況等を考慮した対応をとりながらも、積極的参加をお願いする。 ・地元や近隣地域及びその中学生に対する広報や情報発信に一層力を入れ、志願者数の増加に取り組んでいく。 ・町との連携協定にもとづいた取組により、多くの行事や課外活動に協力と支援を引き続き依頼し、学校の活性化に努める。
(11) 総括		生徒は挨拶がしっかりしていて、問題行動やいじめはない。 生徒が少人数の利点を活かしたキメの細かい指導を行っている。3年生生徒については、全員の進路が決定し、その指導においても全教員による丁寧な指導を実践している。 今年度はコロナ禍にありながらも学校行事や生徒会行事をできるだけ実施することができ、その実施にあたっては、町との連携協定に基づき、町から多くの協力をいただいている。特にSBP研究会の活動については、SBP事業に基づいた支援や協力があって活動ができており、11月には、「全国高校生1億円プロジェクト」事業の報告を県教育長及び鯨ヶ沢町長に行っている。修学旅行については、保護者の同意が得られず、残念ながら今年度も中止とした。 今後は、令和5年度・6年度入学選抜の志願者数を増やすべく、本校の活性化の方策を決定し、如何に本校の魅力を外部へ発信していくかが大きな課題であり、鯨ヶ沢高校活性化協議会において十分な協議を進めていく。				